

学習英和辞典と英文法〈続〉

Lexicography and English Grammar 〈continued〉

長谷川 ミサ子*

Misako Hasegawa

本稿は、内容的には、長谷川（1990）、長谷川（1991）および長谷川（1992）の続編をなすものである。本稿執筆の趣旨も前回と同様であり、出典や提示の様式など、いずれも、長谷川（1992）を踏襲している。すなわち、項目の提示は、主要語のアルファベット順とし、今回、ここに収録した材料は、ほとんどすべて、John Sinclair, *Collins Cobuild English Grammar* (1990), Collins, 485ページ [以下引用例においてはCEGと略記] に含まれているものである。

able

The doctor will be able to spend more time with the patient. (その医師はその患者ともっと多くの時間を一緒に過ごすことができるようになるであろう。) / The machine ought to be able to do this. (その機械にはこれができるはずだ。)

[▶ 通例、人・動物を主語としてとる。が、国家・社会・機械などのように人によって組織されたり、操作されるものも主語になることができる。] CEG239

absurdly

▶ 「ばかばかしいことだが」。文修飾副詞。

*英語専攻

CEG418

actually

▶ 文修飾副詞。1)場面の蓋然性に対する話し手の査定を示す。2)話題を変えるときに用いられる。3)先行陳述を訂正するための新しい事実を提示するとき用いられる。

CEG420,425

A.D.

▶ 年号の前にも、後にも付けることができる：
A.D.1650, 1650A.D. CEG264

admittedly

▶ 「もちろんのことであるが」。文修飾副詞。

CEG418

aesthetically

▶ 「美(学)的見地からすれば」。話し手がどの分野について話しているのかということを示す文修飾副詞。aesthetically speaking となることもある。 CEG421

all

All he did was to shake hands and wish me good luck. (彼がしたのは握手して、お幸せにといっただけでした。)

[▶ All he did ... はWhat he did ... を強めた形と考えることができる。] CEG410

after all

She did not regret accepting his office. He

was, after all, about the right age. (彼の申し出を受け入れたことに悔いはなかった。だってあの人ちょうどいい年ごろだったんですもの。)

[▶ after all は今自分が述べたことの妥当性やその理由に言及しようとするときに用いられる。]

CEG425

at all

I didn't like it at all. (私はそれが全く気に入らなかった。)

[▶ at all は意味を強めるため否定文の文末に置かれる。]

CEG426

allegedly

▶ 「(真偽のほどは保証しかねるが) 伝えられるところによると」。文修飾副詞。場面の蓋然性に対する話し手の査定を示す。

CEG420

allow

She allowed her son only 10 dollars a week. (彼女は息子に週10ドルの小遣いしかやらなかった。)

[▶ この場合, * She allowed only 10 dollars a week to her son. とすることはできない。]

CEG161

already

▶ be, know, have 以外の過去形の動詞とは、通例、用いられない。また、一般に否定文では用いられない。が、否定疑問文、否定条件文、関係代名詞節の中では用いられる：What does it show us that we haven't already felt? 「それは我々がまだ感じていなかった何を示しますか」。Refer certain types of death to the coroner if this has not already been done. 「ある種の死はまだそうしていないなら、検死官に届け出なさい」。... all peers who did not already belong to the Privy Council. 「まだ枢密院に属していなかった貴族」。

CEG262

amount

Enormous amounts of money are spent on advertising. (多額の金が広告に費やされて

いる。)

[▶ amount が複数形の場合は、多額の使途がいくつもあるとを含意する。]

CEG109

and

And you will listen dutifully? (で、うやうやしく拝聴するってわけ?)

[▶ 平叙文で疑問を表す場合、接続詞で始まることが多い。]

CEG205

anyhow

▶ 文修飾副詞。話題を変えるときに用いられる。

CEG425

anyway

▶ 文修飾副詞。話題を変えるときに用いられる。

CEG425

anywhere

Sometimes I feel that anywhere would be better than this. (どこだってここよりはましだと思うことがある。)

[▶ anywhere が主語として用いられるのは、述部が be 動詞であるときに多い。]

CEG305

appetizing

▶ 「食欲をそそる」。この意味を表す動詞 appetize はない。

CEG78

as

as if

She shook as if she were crying. (彼女は泣いているかのように身をふるわせていた。)

[▶ was の代わりに were を用いると形式ばった表現となる。]

CEG362

She felt as if she has a fever. (彼女は熱っぽい気がした。)/ His hair looked as if it had been combed with his fingers. (彼の髪は指でとかしたような形をしていた。)

[▶ as if, as though は feel や look のような連結動詞のあとに用いることもできる。]

CEG361

ashamed

▶ これと関連のある ashamed という動詞はない。

CEG82

ask

A sample copy will be sent to you, if you ask. (請求があれば, サンプルのコピーをお送りしましょう。)

[▶ ask の場合は, 代不定詞 to を用いて if you ask to のようにはしない。] CEG398

astonishingly

▶ 「おどろいたことに」. 文修飾副詞。
CEG418

at

▶ At about four o'clock in the morning, we were ambushed. (朝の4時ごろ我々は待伏せにあった。)

[▶ この at は, くだけた英語では略される。]
CEG267

basically

▶ 「基本的に」. 文修飾副詞. 強い全面的な断定を避けたいときに用いる。 CEG422

bath

have a bath (一風呂あびる)

[▶ have は《英》に多く, 《米》では take a bath の形が普通。] CEG151

be

It was like a dream. (まるで夢のようだった。)

[▶ like (「... のようだ」) の前にくるのは連結動詞である。] CEG91

beer

▶ a couple of beers (= a couple of bottles of beer) (ビール1, 2本) CEG112

before

▶ before が位置関係を示す前置詞として用いられるとき, その目的語は, 通例, 人, または, 人の集まりである。 CEG298

beloved

▶ これと関連のある love という動詞はない。 CEG82

beyond

Beyond them lay the fields. (それらの向こうは原っぱだった。)

[▶ 場所の前置詞句が文頭にあるため倒置を起こしている例。] CEG285

biologically

▶ 「生物学的見地からすれば」. 話し手がどの分野について話しているのかということを示す文修飾副詞. biologically speaking となることもある。 CEG421

bravely

▶ 「勇ましく」. 主語と述語動詞との間に置かれると, 主語がある行為を伴う際に見せたと考えられる特性を述べるのに用いられる。

CEG419

broadly

▶ 「概略的にいえば」. 文修飾副詞. 強い全面的な断定を避けるときに用いる。 CEG422

can

Can I come with you? (ご一緒してもよろしいですか。)

[▶ Can't I come with you? とすると, より強い依頼の形となる。] CEG229

canoe

They went canoeing. (彼らはカヌーをこぎに行った。)

[▶ canoe が canoeing の形をとるのはこの形が最も多い。] CEG24

caravan

We went caravanning round France. (我々はキャラバンを組んでフランスをまわった。)

[▶ caravan が caravanning の形をとるのはこの形が最も多い。] CEG24

carelessly

▶ 「不注意にも, うっかり」. 主語と述語動詞との間に置かれると, 主語がある行為を行う際に見せたと考えられる特性を述べるのに用いられる。 CEG419

case

in case

▶ だれかが何かをする理由となるような未来の状態を述べるのに用いられる。「... に備えて, ... するといけないから」等の訳語で表される。 CEG355

century

▶ -00年に始まり, -99年に終わる。したがっ

て、紀元1世紀は、0 A.D. - 99A.D. 紀元2世紀は100A.D. - 199A.D. 20世紀は1900 A.D. - 1999A.D.を指すことになる。CEG264

certainly

▶「確かに」。文修飾副詞。場面の蓋然性に対する話し手の査定を示す。CEG420

characteristically

▶「特徴的なことに、特徴的に」。文修飾副詞。CEG418

chemically

▶「化学的に言えば」。話し手がどの分野について話しているのかということを明示する文修飾副詞。chemically speaking となることもある。CEG421

clearly

▶「明らかに」。文修飾副詞。自分の見聞に基づき判断を述べる。CEG420

cleverly

▶「如才なく、じょうずに」。主語と述語動詞との間に置かれると、主語がある行為を行う際に見せたと考えられる特性を述べるのに用いられる。CEG419

close

The crowds tried to get closer. (群衆はもっとそばへ寄ろうとした。) / He moved a bit closer to her. (彼は彼女の方にもうちょっと身をよせた。)

[▶ close には形容詞用法もあるが、closer には副詞用法しかない。副詞としての close は、closer という比較級の形でより多く用いられる。] CEG304-5

coincidentally

▶「偶然に」。文修飾副詞。CEG418

comma

▶名詞句に、それを修飾する同格の名詞句を添える場合には、両者の間にコンマを入れる。この名詞句は別々の構造をなすものであるからである。Her mother, a Canadian, died when she was six. 「カナダ人であった彼女の母は、彼女が6才のときに亡くなった」。しかし、同格の名詞句を前置した場合は、コ

ンマはあってもなくてもよい。Joan's husband, Jim Inglis / my husband George CEG134-5

conveniently

▶「好都合なことに」。文修飾副詞。CEG418

correctly

▶「正しく、正確に」。主語と述語動詞との間に置かれると、主語がある行為を伴う際に見せたと考えられる特性を述べるのに用いられる。CEG410

could

John could speak Russian and Finnish. (ジョンはロシア語もフィンランド語も話すことができた。)

[▶ John が故人であれば過去における能力に言及することができる。] CEG221

Could we stay here? (ここにいてもよいでしょうか。)

[▶ Couldn't we stay here? とすると、より強い依頼の形となる。] CEG229

Could you show me how to do this? (これどういうふうにとったらよいか教えてくださいませんか。)

[▶ would よりもより丁寧な言い方。] CEG229

Martine, could you make us a drink? (マーティン、何か私たちに飲物を作ってくださいませんか。)

[▶ 相手の名前を文頭、または、文末につけるといっそう丁寧な依頼となる。] CEG230

culturally

▶「文化的に言えば、文化の観点から言えば」。話し手がどの分野について話しているのかということを明示する文修飾副詞。culturally speaking となることもある。CEG421

curiously

▶「奇妙 [不思議] なことに」。文修飾副詞。しばしば enough を伴う。CEG419

deal

a good deal easier (ずっとやさしい)

- [▶ 修飾語句としての a good deal は比較級のみを修飾する.] CEG98
- decade**
▶ 1990-1999のように, 0年に始まり9年に終わる10年間を指す. CEG264
- definitely**
▶ 「確かに」. 文修飾副詞. 場面の蓋然性に対する話し手の査定を示す. CEG420
- difficult**
▶ -ly を付して副詞を作ることはできない. 代わりに with difficulty 「かろうじて, やつと, 苦労して」のような前置詞句を用いる. CEG288
- disarming**
▶ 「敵意を除くような, 心をやわらげる」. この意味で disarm という動詞を用いることはまれ. CEG78
- dollar**
Five hundred dollars is a lot of money. (500ドルは大金だ.)
[▶ 金額を示す主語は複数形でも動詞は単数呼応となる.] CEG116
- doubt**
no doubt
▶ 「多分, おそらく」. 文修飾副詞. 場面の蓋然性に対する話し手の査定を示す. CEG420
- doubtless**
▶ 「多分, おそらく」. 文修飾副詞. 場面の蓋然性に対する話し手の査定を示す. CEG420
- drink**
A few students were drinking at the bar. (そのバーで飲んでいる学生が何人かいた.)
[▶ この形は行為そのものに重点を置いた言い方. They had a drink. 「彼らは一杯やった」は, 完結したできごととして述べる言い方.] CEG147
- each**
We helped each other a lot. (我々はお互いに助け合った.)
- [▶ each other を主語として用いることはできない. 目的語, 間接目的語, 前置詞の目的語として用いるのはよい.] CEG38
- ecologically**
▶ 「生態学的に言えば」. 話し手がどの分野について話しているのかということを明示する文修飾副詞. ecologically speaking となることもある. CEG421
- economically**
▶ 「経済的見地から言えば」. 話し手がどの分野について話しているのかということを明示する文修飾副詞. economically speaking となることもある. CEG421
- either**
They stood on either side of the bed. (彼らはベッドの両側に立っていた.)
[▶ either が「二つのものの両方の」意となるのは, それが side, end とともに用いられているときである.] CEG57
- emotionally**
▶ 「情緒的に言えば, 情緒的見地からすれば」. 話し手がどの分野について話しているのかということを明示する文修飾副詞. emotionally speaking となることもある. CEG421
- enemy**
Three of the enemy were killed. (敵が3人殺された.)
[▶ 集合名詞 enemy に数詞を直接結びつけ, *Three enemy were ... とすることはできない. 間に of を必要とする.] CEG17
- enjoy**
She enjoyed herself enormously. (彼女はとても楽しいときをすごした.)
[▶ 再帰代名詞以外の代名詞の形は不可.] CEG146
- environmentally**
▶ 「環境から言えば」. 話し手がどの分野について話しているのかということを明示する文修飾副詞. environmentally speaking となることもある. CEG421
- essentially**

▶ 「本質的な点について言えば」. 文修飾副詞. 強い全面的な断定を避けたいときに用いる. CEG422

ethically

▶ 「倫理(学)的に言えば」. 話し手がどの分野について話しているのかということを示す文修飾副詞. ethically speaking となることもある. CEG421

every

Almost every chair is broken. (どのいすもほとんどみんな壊れている.)

[▶ every は修飾語をとりうるが, each はこれができない. * Almost each chair is broken. 同様に Not every chair is broken. 「どのいすもみんな壊れているわけではない」はよいが, * Not each chair is broken. は不可.] CEG58

everywhere

I looked around for a shop where I could buy chocolate, but everywhere was closed. (チョコレートを買うお店をさがして, あたりに見回した. が, どこも閉まっていた.)

[▶ everywhere が主語として用いられるのは, 述部が be 動詞であるときに多い.] CEG305

evidently

▶ 「明白に, 明らかに」. 文修飾副詞. 自分の見聞に基づき判断を述べる. CEG420

fact

The simple fact is that if you get ill, you may be unable to take the examination. (いいですか, 病気になると試験を受けられなくなるんですよ.)

[▶ The (simple) fact is ... の表現は, これから述べようとしていることが重要なことであるという前触れとして用いられる.] CEG430

fairness

in fairness

▶ 「公平を期するために」. 文修飾副詞. 自分の言っていることに対する話し手の態度を明らかに示すためのもの. CEG420

fall

He fell asleep at the table. (彼は食事中に眠り込んだ.)

[▶ fall が連結詞として用いられるのは, asleep, ill, silent とともに用いられる場合である.] CEG175

financially

▶ 「財政的に言えば, 財政上」. 話し手がどの分野について話しているのかということを示す文修飾副詞. financially speaking となることもある. CEG421

fire

He fired a gun. (彼はピストルを発射した.)

[▶ この文から, The gun fired. 「そのピストルは火をふいた」を作ることにはできるが, He fired a bullet. 「彼はそのたまを打った」から, * The bullet fired. を作ることにはできない.] CEG157

five

a five-dollar bill (5ドル紙幣)

[▶ 数詞 five があっても dollar は単数形である.] CEG117

a five-page summary (5ページのサマリー)

[▶ 数詞 five があっても page は単数形である. しかし, この形を be のあとに用いることはできない: * My essay was five-hundred-word. こういう場合には, My essay was five hundred words long. の形を用いる.] CEG117-8

foolishly

Baldwin had foolishly open the door. (ボールドウィンは愚かにもそのドアを開けた.)

[▶ ドアを開けるという行為が愚かであったという意味. ドアの開け方が愚かであったという意味ではない. The Trade Unions have acted foolishly. は労働組合が愚かなことをしたという意味.] CEG284

forget

before I forget (忘れるといけないから今言いますが)

[▶ 文修飾副詞. 話題を変えるときに用いられる.] CEG425

fortnight

▶ 「2週間」. 単数形でのみ用いられる. CEG270

frankly

▶ 「お気にさわるかもしれませんが, あえて言わせてもらうなら」. 文修飾副詞. 自分の言っていることに対する話し手の態度を明らかに示すためのもの. CEG420

friendliness

with a friendliness that was uncommon for him (彼には珍しい愛想のよさで)

[▶ 修飾要素が冠せられると不可算名詞でも a が付く.] CEG55

fundamentally

▶ 「基本的には」. 文修飾副詞. 強い全面的な断定を避けたいときに用いる. CEG422

funnily

Funnily enough, old people seem to love bingo. (おかしなことに, しばしば老人はビンゴが好きようだ.)

[▶ 文修飾副詞. しばしば enough を伴う.] CEG419

generously

▶ 「元気よく」. 主語と述語動詞との間に置かれると, 主語がある行為を行う際に見せたと考えられる特性を述べるのに用いられる. Harry generously admitted that the painting was fascinating. 「ハリーはその絵が魅力的であると気前よく認めた」は「... と認めたことが, おおらかな処置であった」の意. CEG284,419

In London, the drivers are paid generously. (ロンドンではタクシーの運転手は収入が多い.)

[▶ 「みいり」が多いということ.] CEG284

geographically

▶ 「地理的に言えば」. 話し手がどの分野について話しているのかということを明示する文修飾副詞. geographically speaking とな

ることもある. CEG421

get

What are you getting at? (あなたは何を言うつもりなの.)

[▶ この文を 'At what are you getting?' のようにすることはできない. 単なる前置詞の前置は可能である (Which student did you get the book from? 「どの学生からその本を受け取ったのですか」から, From which student did you get the book? を導くことは (形式ばった文の場合) 可能である) が, 句動詞の一部をなしている前置詞を前置することはできないからである.] CEG170-1

give

He gave it to me. (彼はそれを私にくれた.)

[▶ it も me も旧情報であるので, あまり語順にとられる必要はなく, 人によっては He gave me it. の形を用いる.] CEG160

go

Jack went red. (ジャックは赤くなった.)
/ The world has gone crazy. (世の中が狂ってしまった.)

[▶ go が連結詞として用いられるのは, 色彩語, および mad, crazy とともに用いられる場合である.] CEG175

be going to

Her daughter was going to a summer camp tomorrow. (彼女の娘は明日サマーキャンプへ行くことになっていた.)

[▶ was going to は過去において計画された事柄を述べるのに用いられる. 通例, それが実現されない [なかった] 含みがある.] CEG258

go on

▶ She went on talking about politics. (彼女は政治について話し続けた.)

[▶ go on -ing は「それまでしていたことをそのまま続ける」の意. go on to do は「それから ... する(ことにとりかかる)」の意.] CEG188

half

Half of the people went to private schools.
(半数の人々は私立学校へ行った。)

[▶この形の場合, *A half of ... とはしない。] CEG120

Half of his mistakes are careless ones. (彼のまちがいの半分は不注意によるものである。)

[▶単一体の分数を示す分数は, 単数呼応となる: Half of our work is to design programmes. 「我々の仕事の半分はプログラムを立案することである。」] CEG121

You've got to sit there for one and a half hours. (あなたは1時間半そこに座っていないなければならない。)

[▶oneがあっても, 名詞は複数形になる。] CEG121

happen

It was a wonderful thing to happen. (それはすばらしいことでした。)

[▶こういう構文の場合, 名詞を省いて, *It was wonderful to happen. ということはできない。] CEG178

as it happen

▶「実際はどうかという」と。文修飾副詞。先行陳述を訂正するための新しい事実を提示するとき用いられる。 CEG425

hate

He said he would hate it if they said no. (もし彼らがいやだと言ったら, 困るなあと彼は言った。)

[▶... hate it if ... はある場面に対する感情を表すのに用いられる構文。] CEG412

highly

▶程度の副詞 highly は極めて形式ばった語。くだけた文体では, awfully, extremely, horribly, really, terribly, dreadfully.

CEG94

honesty

in all honesty

▶「正直なところ」。文修飾副詞。自分の言っていることに対する話し手の態度を明らかに

示すためのもの。

CEG420

hopefully

▶「願わくば, うまくゆくといいかなあと思っ
て言うのですが」。文修飾副詞。場面の蓋然
性に対する話し手の査定を示す。 CEG420

ideologically

▶「イデオロギー的に言えば」。話し手がど
の分野について話しているのかということ
を明示する文修飾副詞。ideologically speaking
となることもある。 CEG421

if

Won't it seem odd if I have no luggage ?
(荷物が何もないとへんに思われ
ないかしら。)

[▶It ... if ... の構文は, ある状況
に対する話し手の意見を述べるのに用い
られるもの。] CEG412

incidentally

▶「ところで, ついでに言うと」。文修飾副
詞。話題を変えるときに用いられる。

CEG425

incredibly

▶「信じられないことだが」。文修飾副詞。

CEG418

indebted

▶「恩恵を受けている」。これと関連のある
indebt という動詞はない。 CEG82

intellectually

▶「知的側面に関して言えば」。話し手がど
の分野について話しているのか
ということを明示する文修飾副詞。intellectually speaking
となることもある。 CEG421

interestingly

Interestingly enough, this proportion has
not increased. (興味深いことにこの比率は
増えなかった。)

[▶文修飾副詞。しばしば enough を伴う。]

CEG419

kindly

She very kindly arranged a beautiful lunch.
(彼女は実に親切なことであったが, すばら

しい昼食を作ってくれた。)

[▶ この文の *kindly* は、ある人がある行為をすることによって示したと考えられる特性を示している。] CEG419

know

you know

▶ 「... でね」. 文修飾副詞. 話題を変えるときに用いられる。 CEG425

knowledge

an exact knowledge of the theory (その理論に関する正確な知識)

[▶ 修飾要素が冠せられると不可算名詞でも *an* が付く。] CEG55

laugh

Who are they laughing at? (彼らはだれのことを笑っているのですか。)

[▶ この文を *At whom are they laughing? のようにすることはできない。単なる前置詞の前置は可能である (Which student did you get the book from? 「どの学生からその本を受け取ったのですか」から From which student did you get the book? を導くことは (形式ばった文の場合) 可能である) が、句動詞の一部をなしている前置詞を前置することはできないからである。] CEG171

learn

"You never learned the deaf and dumb alphabet?" - "No, never." (「あなたは手話を習わなかったのですか」 - 「ええ、とうとう (習いませんでした)」)

[▶ 否定の平叙文で疑問を表すときは、否定の答えを期待している。] CEG205

let

Let's forget it, shall we? (そのことはもう忘れようね。)

[▶ この付加疑問は、相手の同意を確認するためのもの。] CEG434

like

I wouldn't like to be a student. (私は学生にはなりたくない。)

[▶ 現在学生でない人が学生になりたくないという場合に用いる。I would like not to be a student. は現在学生である人が学生をやめたいというときに用いる。] CEG235

I like it here. (私はここが気に入っているんだ。)

[▶ 特定の場所や場面について、どういう感じをもっているかということ述べるときに用いる構文。] CEG412

logically

▶ 「論理的に言えば」. *logically speaking* となることもある。 CEG421

long

▶ 副詞としての *long* は疑問文・否定文でのみ用いられる。How long does it take on the train? 「汽車でどのくらいかかりますか」 / I haven't been in England long. 「イギリスにはあまり長くはいませんでした」。肯定では *a long time, for a long time* の形で用いられる。ただし、比較級 (*longer*)、最上級 (*longest*) は肯定文でも否定文でも用いられる。She's been your friend longer. 「彼女の方がより長い友だちですね」。条件文では *for long* が用いられる。If she is away for long, we won't be able to wait. 「もし彼女が長いこと家を離れているのなら、もう待てないでしょう」。 CEG274

look

He looked like a nice man. (彼はすてきな人のようだ。)

[▶ *like* (「... のようだ」) の前にくるのは連結動詞である。] CEG91

She had a look around the room. (彼女はその部屋を見回した。)

[▶ この形は、行為そのものに重点を置いた言い方。She had a look at the picture. 「彼女はちらっとその写真をみた」は、完結したできごととして述べる言い方。] CEG147

lot

He thought that lots of money was the source of happiness. (お金がどっさりあれ

ば、幸せになれると彼は思っていた。)]

[▶ 主語の lots は複数形であっても、あとに不可算名詞が続くとき、動詞は単数呼応となる。] CEG108

make

He'll make a good president. (彼はよい大統領になるでしょう。)

[▶ make が連結詞として用いられるのは、ある人がある仕事・業務に適合しているかどうかを述べる場合に限られる。] CEG175

manifestly

▶ 「明らかに」。文修飾副詞。自分の見聞に基づき判断を述べる。 CEG420

mass

Masses and masses of food was left over. (大量の食べものが食べ残された。)

[▶ 主語の masses は複数形であっても、あとに不可算名詞が続くとき、動詞は単数呼応となる。] CEG108

mean

“You mean it's still here ?” – “of course.” (「それはまだここにあるって言うの？」 – 「もちろんさ」)

[▶ 肯定の平叙文で疑問を表すときは、肯定の答えを期待している。] CEG205

means

by all means

If your baby likes water, by all means give it to him. (赤ちゃんが水を好むなら、是非とも水を与えなさい。)

[▶ by all means は許可の含意をもつ文に添え、それを「是非とも ... しなさい」のように強める働きをする。] CEG426

mechanically

▶ 「機械的に言えば」。話し手がどの分野について話しているのかということを明示する文修飾副詞。mechanically speaking となることもある。 CEG421

mentally

▶ 「心理的に言えば」。話し手がどの分野について話しているのかということを明示する

文修飾副詞。mentally speaking となることもある。 CEG421

might

“Is he a teacher ?” – “I think he might be.” (「彼は先生ですか」 – 「かもね」)

[▶ この場合、might のあとの be を省くことはできない。同じ条件でも、一般動詞の場合には、省略可能：“John has failed his exam.” – “I thought he might.” 「ジョンは試験に失敗した」 – 「だろうとっていたよ」。] CEG220

mile

Three miles is generally taken to be the boundary of a country's airspace. (通例、一国の空域とされているのは3マイルである。) / Ninety miles an hour is much too fast. (時速90マイルはあまりにも速すぎる。)

[▶ 距離・スピードを示す語が複数形でも動詞は単数呼応となる。] CEG116

mind

to my mind

▶ 「私の考えでは、私には ... と思われます」。文修飾副詞。自分の言っていることに対する話し手の態度を明らかに示すためのもの。 CEG420

moment

▶ three moment のように数詞とともに用いることはできない。 CEG270

more

She was more of a flirt ever. (彼女は相も変わらずあばずれだった。)

[▶ more of は次にくる名詞句を強める働きをする。] CEG109

mountaineer

go mountaineering (山登りに行く)

[▶ mountaineer が mountaineering の形をとるのはこの形が最も多い。] CEG24

much

much as

The mountainous landscape was then much as it is today. (その頃の山の景色は

今とあまりかわらないものであった。)

▶ 比較的軽い比較を示す。強い比較は just as によって示す。] CEG361

naturally

▶ 「当然のことながら」。文修飾副詞。 CEG418

near

Come nearer. (もっとこっちへきて。)
▶ 副詞としての near は、nearer という比較級の形でより多く用いられる。] CEG305

neither

Neither Margaret nor John was invited. (マーガレットもジョンも招待されなかった。)
▶ neither が二つのものに言及しているとき、その動詞は単数呼応。ただし、Neither of children were there. のように複数呼応をすることもある。] CEG212

never

She never goes abroad. (彼女は海外へは行きません。)
▶ 一般動詞とともに用いられるとき、never は動詞の前にくる。] CEG211

next

Next to it stood a pile of paper cups. (その隣に紙コップの山があった。)
▶ 場所の前置詞句が文頭にあるため倒置をおこなっている。] CEG285

no

... no elder than (... と同じ年かさの)
▶ no が形容詞の比較級を修飾できるのは、その形容詞が叙述的に用いられている場合に限られる。 * It was no better meal.] CEG98

nominally

▶ 「名目上(は)」。文修飾副詞。場面の蓋然性に対する話し手の査定を示す。 CEG420

nothing

Is there nothing I can do? (私のできることは何もないんでしょうか。)
▶ 疑問文に nothing を用いると、答えは、否定が予想されている。例えば、Not a thing.

「ありませんとも」のように。] CEG38

now

now that

Now that she's found him, she'll never let him go. (やっと彼を見つけたのだから、彼女はもう彼を放さないでしょう。)

▶ 新しい事態が何かの理由になっているときに用いる。] CEG356

now them

▶ 「さて」。文修飾副詞。話題を変えるときに用いられる。 CEG425

nowhere

They were getting nowhere. (彼らはどこも行って行きつくあてもなかった。)

▶ nowhere は「なんら進展がみられない」という比喩的な意味で用いられることが多い。] CEG305

number

large numbers of low-paid workers (大量の低賃金労働者たち)

▶ number が複数形の場合は、群がいくつもあることを含意する。] CEG109

numerically

▶ 「数字の上で言えば」。話し手がどの分野について話しているのかということを示す文修飾副詞。numerically speaking となることもある。 CEG421

obviously

It is obviously made by hand. (それは明らかに手製のものだ。)

▶ 自分の見聞に基づいて判断を加える文修飾副詞。] CEG419

odd

▶ It is odd ... の場合、that と同じ意味でときどき how が用いられる: It is odd how ... 「 ... というのは不思議 [奇妙] だ。」

CEG415

oddly

▶ 「奇妙 [不思議] なことに」。文修飾副詞。しばしば enough を伴う。 CEG418

-oes

▶ この複数語尾のみをとる主要な名詞：
domino, echo, embargo, hero, negro,
potato, veto CEG439

officially

▶ 「公式的に言えば」. 文修飾副詞. 場面の
蓋然性に対する話し手の査定を示す.
CEG420

O.K.

▶ 「いいですか」. 文修飾副詞. 話題を変え
るときに用いられる. CEG425

order

in order to

We keep the window shut in order not to
let the flies in. (ハエが入ってこないように
窓を閉めておく.)

[▶ これを * We keep the window shut not
to let the flies in. とすることはできない.]
CEG354

ostensibly

▶ 「見かけ上は」. 文修飾副詞. 場面の蓋然
性に対する話し手の査定を示す. CEG420

outwardly

▶ 「外見上から見たところでは」. 話し手が
どの分野について話しているのかというこ
とを明示する文修飾副詞. outwardly speaking
となることもある. CEG421

over

all over

▶ all over が前置詞として用いられるのは,
その目的語が, 広い地域 (例えば, all over
the world 「世界中」), あるいは, 「そこい
ら中」 (all over the place 「そこいら中一
面に」) を表す名詞句である.
CEG298

overall

▶ 「全般的に, 総合的に」. 文修飾副詞. 強
い全面的な断定を避けたいときに用いる.
CEG422

own

their own three children (彼らの三人の子
供たち)

[▶ 数詞は own の次に入れる.] CEG50
I heard it with my own ears. (私は自分の
耳でそれを聞いたんだ.)

[▶ 所有などの関係を強めるとき own を用
いる.] CEG50

pair

A new pair of shoes brings more happiness
to a child than a new car brings to a
grown-up. (子供が新しい靴を買ってもら
うと, 大人が新しい車を手に入れたときより喜
ぶものだ.)

[▶ A pair of ... は同一節内では単数動詞と
呼応する.] CEG16

He wore a pair of earphones, which were
plugged into a tape-recorder. (彼はイヤホ
ンをつけていた. そしてそれはテープレコー
ダーに差込まれていた.)

[▶ a pair of ... は, 後に続く節内で, 動詞
と呼応する場合には, 複数呼応となる.]
CEG16

He brought out a pair of dark glasses and
handed them to Harry. (彼は濃いサングラ
スを取り出し, それをハリーに手渡した.)

[▶ a pair of ... は複数代名詞で受ける.]
CEG16

paradoxically

▶ 「逆説的ではありますが」. 文修飾副詞.
CEG418

percent

About 90 percent of most food is water.
(たいていの食物の90%は水分である.)

[▶ percent of の次が複数名詞の場合は, 動
詞も複数呼応となる: About 20 percent of
the students are women. 「学生のおよそ20
%が女性である」.] CEG122

perhaps

May I perhaps bring a friend with me?
(友だちを一人連れていってもよいでしょう
か.)

[▶ perhaps を主語のあとに添えると, 依頼
はぐっと丁寧になる.] CEG230

permanently

▶ 比較級 (more permanently) の形でも用いられ「もっと永久に」の意となる。

CEG274

personally

▶ 「自分としては、個人的見解として言えば」。文修飾副詞。自分の言っていることに対する話し手の態度を明らかに示すためのもの。

CEG420

physically

▶ 「物理 (学) 的に言えば」。話し手がどの分野について話しているのかということを明示する文修飾副詞。physically speaking となることもある。

CEG421

plainly

▶ 「明らかに」。文修飾副詞。自分の見聞に基づき判断を述べる。

CEG420

point

The point is to find out who was responsible. (大事なのは責任をとるべき人をさがし出すことだ。)

[▶ The point is ... の表現は、これから述べようとしていることが重要なことであるという前触れとして用いられる。]

CEG430

politically

▶ 「政治的に言えば」。話し手がどの分野について話しているのかということを明示する文修飾副詞。politically speaking となることもある。

CEG421

possibly

▶ 「ひょっとすると ... かもしれない」。文修飾副詞。場面の蓋然性に対する話し手の査定を示す。

CEG420

May I possibly have a word with you? (ちょっとお話ししたいのですが。)

[▶ possibly を主語のあとに添えると、依頼はぐっと丁寧になる。]

CEG230

potentially

▶ 「潜在的には」。文修飾副詞。場面の蓋然性に対する話し手の査定を示す。

CEG420

pound

Ninety pounds is all she weighs. (彼女は90ポンドしか体重がない。)

[▶ 体重を示す主語が複数形でも動詞は単数呼応となる。]

CEG116

practice

in practice

▶ 「実際上は」。文修飾副詞。場面の蓋然性に対する話し手の査定を示す。

CEG420

predictably

▶ 「予測できることだが」。文修飾副詞。

CEG418

presumably

▶ 「おそらく」。文修飾副詞。場面の蓋然性に対する話し手の査定を示す。

CEG420

psychologically

▶ 「心理的に言えば」。話し手がどの分野について話しているのかということを明示する文修飾副詞。psychologically speaking となることもある。

CEG421

put

put up with

all the things I've had to put up with (私ががまんしなければならなかったもろもろのこと)

[▶ 句動詞の前置詞 with を前置することはできない。* all the things with which I've had to put up]

CEG366

pyjamas

▶ 修飾語として用いると, pyjama trousers 「パジャマのズボン」のように -s が落ちる。

racially

▶ 「人種 [民族] 的に言えば」。話し手がどの分野について話しているのかということを明示する文修飾副詞。racially speaking となることもある。

CEG421

rate

at any rate

This had saved her life ; or at any rate her sanity. (このことが彼女の命を救った。それにしてもとにかく彼女の正気を救った。)

[▶ 前に述べたことを訂正するのに用いられ

る. or に続くことが多い.] CEG430

rather

▶ 「つまり, すなわち」. 前に述べたことを訂正するのに用いられる. or に続くことが多い.] CEG430

reality

in reality

▶ 「実際は」. 文修飾副詞. 場面の蓋然性に対する話し手の査定を示す. CEG420

really

▶ 文修飾副詞. 場面の蓋然性に対する話し手の査定を示す. CEG420

reason

the reason that non-violence is considered a virtue (非暴力が美德であると考えられている理由)

[▶ the reason のあとでは, why ではなく, that またはゼロの関係詞が好まれる. That's the reason I'm checking it now. 「私がそれを今吟味している理由」.] CEG368

reflection

on reflection

▶ 「よく考えてみると, 熟考した上で」. 文修飾副詞. 自分の言っていることに対する話し手の態度を明らかにするためのもの. CEG420

regret

She did not regret accepting his offer. (彼女は彼の申し出を受け入れたことを後悔していなかった.)

[▶ regret -ing はすでにしたことに言及し, regret to do はこれからしようとしていることに言及する. I regret to say rents went up. 「残念ながら, 部屋代が上がった」なお, regret to の次にくることができるのは, 情報の授受を示す動詞 say, tell, inform, announce, learn, see に限られる.] CEG188

remember

I remember promising that I would try. (私はやってみると約束したことを忘れてはいない.)

[▶ remember -ing はすでにしたことに言及し, remember to do はこれからしようとしていることに言及する. She must remember to get the bicycle under cover. 「忘れずに自転車にカバーをかけなければならない」.]

CEG188

retrospect

in retrospect

▶ 「回顧してみると」. 文修飾副詞. 自分の言っていることに対する話し手の態度を明らかにするためのもの. CEG420

right

▶ 「いいですね」. 文修飾副詞. 話題を変えるときに用いられる. CEG425

rightly

▶ 「正しく」. 主語と述語動詞との間に置かれると, 主語がある行為を行う際に見せたと考えられる特性を述べるのに用いられる. CEG419

run

the difficulties which he ran up against (彼が遭遇した困難)

[▶ * the difficulties against which he ran up とはならない.] CEG171

sake

for heaven's sake

What are you staring at, for heaven's sake? (いったい全体何をみすえているの.)

[▶ 依頼・質問に添え, それを強めるのに用いられる.] CEG427

say

I must have said something wrong. (私は何か間違ったことを言ったに違いない.) / The man nodded, but said nothing. (その男はうなずいたが何も言わなかった.)

[▶ say が目的語をとっているとき, それは something, anything, nothing のように一般的な語に限られる.] CEG336

scientifically

▶ 「科学的に言えば」. 話し手がどの分野について話しているのかということを明示する

文修飾副詞. scientifically speaking となることもある. CEG421

scream

She screamed. (彼女は金切り声をあげた.)
 [▶ 繰り返し叫んだときにも用いられる. これに反し, She gave a scream. 「彼女はキャーと叫び声をあげた」は, 短い叫び声を一回だけあげたときに用いる.] CEG148

see

A terrorist was seen standing in the middle of the road. (テロリストが通りのまん中に立っているのが見られた.)
 [▶ -ing 形は一定期間継続している行為を表すのに用いられる. to 不定詞は完結した行為を示す. The baby was seldom seen to cry. 「その赤ちゃんが泣くところを見たことはほとんどない」.] CEG192
 Can't you see that I'm busy? (ぼくの忙しいのが分かんないの.)
 [▶ 修辭疑問文. 相手の答えを求めているのではない.] CEG206

seem

The houses seemed like mansions. (それらの家はアパートのようだ.)
 [▶ like (「... のようだ」) の前にくるのは, 連結動詞である.] CEG91
 They didn't seem to notice me. (彼らは私に気がつかないようだった.)
 [▶ They seemed not to notice me. と同義. cf. She didn't try to smile. 「彼女は笑おうとしなかった」キ She tried not to smile. 「彼女は笑うまいと努めた」.] CEG208

seemingly

▶ 「一見したところでは」. 文修飾副詞. 場面の蓋然性に対する話し手の査定を示す. CEG420

seriously

▶ 「まじめなところ, 冗談は抜きにして」. 文修飾副詞. 自分の言っていることに対する話し手の態度を明らかにするためのもの. CEG420

sexually

▶ 「性的な点では, 性的に言えば」. 話し手がどの分野について話しているのかということを示す文修飾副詞. sexually speaking となることもある. CEG421

shall

I'll tell you roughly, shall I? (そのことのアラましをお話ししましょうか.)
 [▶ この shall I? は, 自分がしようと思っていることに対する相手の同意を求めるもの.] CEG434
 Shall I shut the door? (ドアを閉めましょうか.)
 [▶ 相手がこちらの考えを受け入れるであろうという自信が話し手の側にあるときに, shall を用いる. 相手の意向がはっきりしないときは should を用いる. Should I give her a ring? 「彼女に電話してみましようか」.] CEG231

shave

He shaved himself every day. (彼は毎日ひげをそる.)
 [▶ なんとなく毎日していることには, 通例, 再帰代名詞は用いない. したがって, この文の himself は削除するほうが適切である. なお, 「幼児がはじめて自分で着物を着た」などのような場合に再帰代名詞を用い, He dressed himself. のように言うのはかまわない.] CEG33

sightsee

go sightseeing (観光に行く)
 [▶ sightsee が sightseeing の形をとるのは, この形が最も多い.] CEG24

significantly

▶ 「有意義なことであるが」. 文修飾副詞. CEG418

sky

a gloomy sky (どんよりした空)
 [▶ 唯一物でも特定の一局面に注意が向いている場合は a を取る.] CEG55

so

▶ 連結動詞のあとにのみ用いる。I am so sorry. CEG94

So you are satisfied? (で、満足しましたか。)

[▶ 平叙文で疑問を表す場合、接続詞で始まることが多い。] CEG205

socially

▶ 「社会的見地からすれば、社会的に言えば」。話し手がどの分野について話しているのかということを明示する文修飾副詞。socially speaking となることもある。 CEG421

some

I didn't meet her again for some years. (その後数年彼女にはずっと会っていない。)

[▶ この for some years は「長い間(何年も)ずっと」というやや強い意味を表す。]

CEG56

sound

It sounded like a fine idea. (それはすばらしいアイデアのように思われた。)

[▶ like (「... のようだ」) の前にくるのは、連結動詞である。] CEG91

speak

▶ 1) 「話す」という意味をもちながら、伝達動詞としては用いられない。2) 被伝達部の that 節をとることはできない。CEG315,337

spectacles

▶ 修飾語として用いられると、my spectacle frame 「私のメガネのフレーム」のように -s が落ちる。ただし、glasses は、修飾語として用いられても my glasses frame のように -es は落ちない。 CEG101

spiritually

▶ 「精神的な側面について言えば」。話し手がどの分野について話しているのかということを明示する文修飾副詞。spiritually speaking となることもある。 CEG421

stand

George stood motionless for at least a minute. (ジョージは少なくとも1分間じっと立っていた。)

[▶ stood は連結詞としての働きと、「立っていた」という意味を表す働きとをかね備えている。すなわち、この文は、George was motionless. と単に同義ではない。]

CEG178-9

statistically

▶ 「統計上」。話し手がどの分野について話しているのかということを明示する文修飾副詞。statistically speaking となることもある。 CEG421

still

Of course they've get to do better still. (もちろん彼らはもっとよいきばえを示さなくてはならない。)

[▶ still は比較級のあとに置かれる。]

CEG295

There are many other questions still to be answered. (ほかにまだ答えを出さなければならない問題がたくさんある。)

[▶ still to は起きることが期待されながら、まだ生じていないことを述べるのに用いられる。この still は否定文では用いられない。代わりに yet を用いる。] CEG261

strange

▶ It is strange ... の場合、that と同じ意味で、ときどき how が用いられる: It is strange how ... 「... というのは不思議[奇妙]だ」。 CEG415

sugar

two sugars (=two spoonfuls of sugar) CEG112

sun

a weak sun (弱々しい日ざし)

[▶ 唯一物でも特定の一局面に注意が向いている場合は a を取る。] CEG55

surely

Surely it is better to know the truth than to be deluded. (もちろん、たぶらかされるよりは本当のことを知るほうがいいですよえ。)

[▶ この場合、surely は相手の同意を求める

ための文修飾副詞.] CEG426

surf

Where's the best place to go surfing? (サーフィンに行くのに一番いいところはどこですか.)

[▶ surf が surfing の形をとるのはこの形が最も多い.] CEG24

tag-question

So you are the new assistant, are you? (ああ, あなたが, 今度来た助手さんね.)

[▶ この形の付加疑問は修辞疑問文で, 強い関心を示し, 相手の答えを期待しているものではない.] CEG206

talk

▶ 1) 「話す」という意味をもちながら, 伝達動詞としては用いられない. 2) 被伝達部の that 節をとることはできない.

CEG315,337

technically

Technically, marriage has a legally enshrined status. (厳密に(法解釈にしたがって)言うと, 結婚には法律的にしっかりと守られている地位がある.)

[▶ 話し手がどの分野について話しているのかということを示す文修飾副詞. technically = technically speaking = from a technical point of view] CEG421

technologically

▶ 「技術的に言えば」. 話し手がどの分野について話しているのかということを示す文修飾副詞. technologically speaking となることもある. CEG421

thing

The thing is, how are we to get her out? (問題はどのようにして彼女を救出するかということだ.)

[▶ The thing is ... の表現は, これから述べようとしていることが重要なことであるという前触れとして用いられる.] CEG430

trousers

▶ 修飾語として用いると, my trouser pockets

「私のズボンのポケット」のように -s が落ちる. jeans などの場合は -s が落ちない.

CEG101

two

Two thirds of the students were invited. (学生の3分の2が招待された.)

[▶ 単一体の分数を示す分数は, 単数呼応となる: Two thirds of the planet's surface is covered with water. 「その惑星(地球)の表面の3分の2が水でおおわれている.]

CEG121

ugly

Isn't that an ugly building? (あれ, なんてへんてこなビルでしょう.)

[▶ 修辞疑問文で, That's an ugly building. と同義.] CEG205

want

I want to know what you think about it. (あなたがそのことをどう思っているのか知りたいのです.)

[▶ I wanted to know ... とすると, より丁寧な表現となる.] CEG240

well

might as well

He might as well take the car. (彼はその車を持って行けばよいのに.)

[▶ 提案を示す might as well は, 話し手がその提案にあまり熱心でないことを示す.]

CEG232

when

It's so nice when it's hot, isn't it? (暑いときって, いい気持ちですね.)

[▶ It ... when の形はある状況に対する話し手の意見を述べるのに用いられる.]

CEG412

where

▶ 名詞節を導く where は be 動詞の補語として用いられる場合が多い: London, I think, is where (= the place where) I want to die. 「ロンドンが私が死にたいと思っているところのようです.」 CEG369

why

Why wake me up? (どうして私を起こすのだ.)

[▶ Why は主語を伴わず、動詞の原形とともに用いられ、ある行為がなぜなされる [なされた] のか問いただすのに用いられる.]

CEG201

why not

Why not go to the library? (図書館へ行ったらよいのに (どうして図書館へ行かないの).)

[▶ Why not ... ? は動詞の原形とともに用いられ、提案を示す。また、ある行動がどうしてとられなかったのか尋ねるのに用いられる.]

CEG201

will

You will go and get one of your parents immediately. (すぐ行って父親か母親を連れてきなさい.)

[▶ will を用いた命令は、いらだちや怒りを示す.]

CEG230

window-shop

We went window-shopping with Grandma. (我々はおばあちゃんとウィンドー・ショッピングに行った.)

[▶ window-shop が window-shopping の形をとるのはこの形が最も多い.]

CEG24

would

Wouldn't you like to come with me? (ご一緒にいらっしゃいませんこと.)

[▶ Wouldn't を用いると、would のときより説得力があり、しかも、しつこさのない勧誘となる.]

CEG231

write

Kate wrote a letter to her boyfriend. (ケイトはボーイフレンドに手紙を書いた.)

[▶ Kate wrote a letter for her boyfriend. のように前置詞が for になると「手紙を代筆した」の意となる.]

CEG161

year

Ten years is a long time. (10年というのは

長い時間だ.)

[▶ 時間の単位を示す主語は複数形でも動詞は単数呼応となる.]

CEG116

yet

The true history of art in post-war America is yet to be written. (戦後のアメリカの真の芸術史はまだ書かれていない.)

[▶ 平叙文の yet は過去において期待されていながら、まだ実現されていないことを述べるのに用いられる.]

CEG261

This is the best museum we've visited yet. (これは我々がこれまで訪れたなかで最高の博物館だ.)

[▶ この yet は、最上級とともに用いられて文末に置かれ、「これから先のことは分からないが、これまでのところでは最上の」の意味を表す.]

CEG261

We don't know the answer yet. (我々はまだその答えを知らない.)

[▶ この yet は、通例、文末に置かれ、起きることが期待されていながら現在のところ起こっていないが、これから起きることが期待されていることについて用いられる.]

CEG261

you

You just bung it in the oven. (それ、オーブンにつっこんで.)

[▶ You を主語に用いた平叙文は、しばしば、くだけた指し図として用いられる.]

CEG205